

『話題の映画になった原作本』

遠距離恋愛の男女がすれ違う距離と時間の変化

「秒速5センチメートル」新海 誠



本作のテーマは「失った過去への後悔と、今この瞬間を大切にすること」です。すれ違いや物理的・心理的な距離が生んだ別れを通じて、人間は過去の喪失に囚われる一方で、『失った後悔と向き合うことの難しさ』『「もしも」への思い』『今この瞬間の大切さ』『他者との関わり的重要性』『人を好きになることの尊さ』そして現在を生きることの重要性を教えてくれる物語です。

人間は他人を頼りながら自分を形成していくこと、そして親しい存在を探すことが大切だと教えてくれます。

その才能が、血筋を凌駕する

「国宝」吉田修一

国宝は、歌舞伎役者の芸道における美の探求と人間の限界、そして「血」と「芸」の継承という日本的なテーマです。任侠の家に生まれた主人公・喜久雄が歌舞伎の才能によって国宝級の役者になるまでの壮大な一代記であり、その過程で彼は美を追求する一方で、人生の無情や人間の移ろい、そして「芸」に賭けることの意味を深く見つめます。歌舞伎の「格」と主人公の「芸道」の重厚さを表現しているのが特徴です。



奪われた故郷を取り戻そうとする若者たちの熱い生き様

「宝島」真藤順丈



激動のアメリカ統治下の沖縄を舞台に、若者たちの友情や葛藤、そして自由を求めて戦い抜く姿を描いた作品です。沖縄の歴史や社会問題への深いメッセージが込められています。第二次世界大戦で「捨て石」にされ、戦後もアメリカ統治下に置かれた沖縄の現実を映し出しています。当時の沖縄の人々がどのような「怒り」や「悲しみ」を抱き、どのように生きてきたのか、その歴史と社会問題に焦点を当てています。

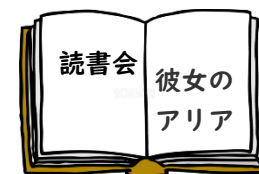
“このミステリーがすごい！”大賞

「爆弾」呉勝浩



皆さんは「無敵の人」という言葉をご存じでしょうか。社会的に失うものが何もなく、犯罪をおこなうことも躊躇しない人のことを指すインターネットスラングです。近年、こうした人たちによる凶悪犯罪が増えています。『爆弾』に登場するのも、まさに「無敵の人」ともいえる人物です。世間に何も求めず、何も求められず、「まあいいや」で人生を過ごしてきた男。それが「まあいいや」から「もういいや」に変わったとき、人は「無敵の人」になるのかもしれませんが。

差別はよくない、人の命に軽いも重いもないと言いながら、未来ある子どもが身寄りのないホームレスを救うなら子どもを選ぶのではないか、安全な場所にいれば凄惨な爆発も観客として楽しんでしまうのではないか——。作中で描かれているのは、私たちが心のどこかで抱えているかもしれない感情。同書は“命の選択”について私たちに問いかけます。



三河地区の読書会を行いました

注目



日時：令和7年9月20日（土）
会場：豊田大谷高等学校 図書館
課題図書：「彼女のアリア」
著者 森絵都
内容：グループ討論と全体会
参加者：3年：山田明輝・杉浦聖佳
2年：赤谷七海
1年：渡邊悠聖・吉澤菜

今回の課題図書『彼女のアリア』は、ピアノ曲がモチーフになっています。旧校舎の元音楽室を舞台に、不眠症の少年と少女の心の揺れ動きを描いた淡い恋愛小説。

不眠症の「ぼく」のテーマ曲は、バッハの『ゴルトベルグ変奏曲』。作者（森絵都）は二人の心理描写をバッハの曲の対位法のように、二人の関係性が絶妙に絡み合って若者特有の緊張感を表現しています。

読書会では、「卒業式に『ごめんね』と書かれた一通の手紙の意味」「主人公の気持ちの変化」などに、それぞれの意見があり、楽しい時間を過ごせました。